

FOMCはFF目標金利を0.25%引き下げ、だが追加利下げには慎重姿勢も

- 米国は10年7ヵ月ぶりに利下げ、FF目標金利は2.0-2.25%に
- パウエルFRB議長は金融市場の利下げ継続期待にクギ
- 米株は目先不安定化も、景気良好なら底堅さ増す見込み

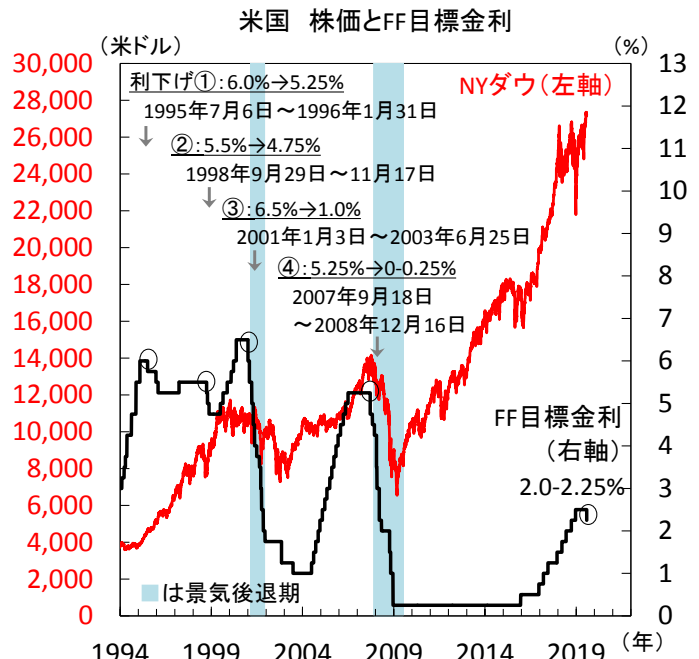
■ パウエルFRB議長は追加利下げの確証与えず

7月31日、FOMC（連邦公開市場委員会）はFF目標金利を0.25%引き下げ2.0-2.25%としました（図1）。ただし、パウエルFRB（連邦準備理事会）議長が今回の利下げは保険であり利下げサイクルの開始ではないと発言、追加利下げの示唆を期待していた市場（年内あと0.25-0.5%程度）の失望を誘い、同発言後の米国株は急落しました。

■ 景気は安定、利下げあれば米株の追い風に

最近の株高は、利下げ継続を前提としていた面もあるため、目先は相場の不安定化も懸念されます。ただし、米景気への見方、つまり雇用改善が続く間、米景気は経済の屋台骨をなす個人消費主導で拡大、通商摩擦などの向かい風に耐えうるとの期待は保たれ（図2）、米国株も徐々に底堅さを増すと考えます。仮に追加利下げがあれば、素直に追い風にも出来るとみま（図3）。（瀧澤）

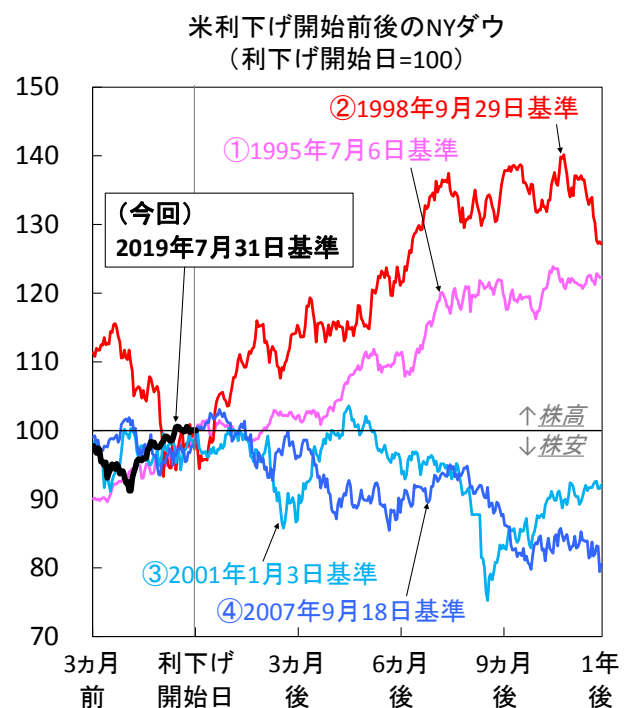
【図1】米国利下げは2008年12月以来、10年7ヵ月ぶり



注）景気後退期はNBER（全米経済研究所）に基づく。
①-④は継続的な利下げ局面（利下げ開始日と最終利下げ日、FF目標金利の期間内変化を表記）。直近値は2019年7月31日時点。

出所）FRB、NBER、Bloombergより当社経済調査室作成

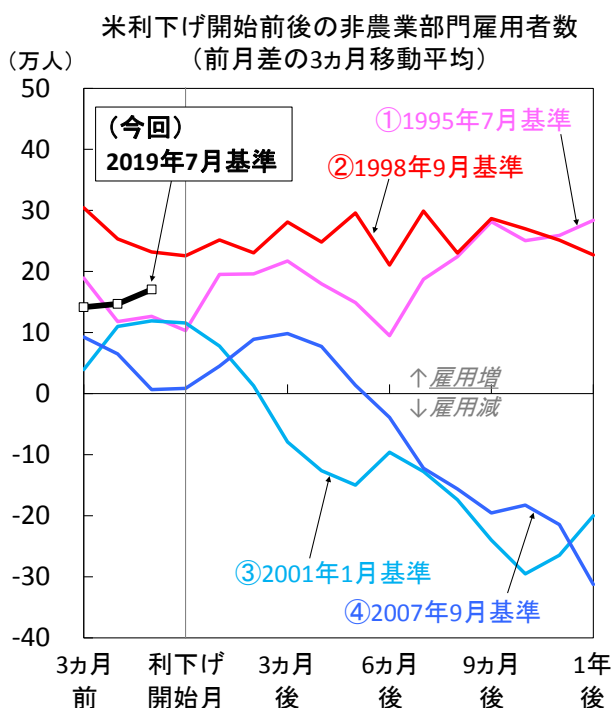
【図3】米景気拡大局面では、利下げは株式の支援材料に



注）利下げ開始日の株価を100として当社経済調査室が指数化。今回の基準日および直近値は2019年7月31日時点。

出所）Bloombergより当社経済調査室作成

【図2】米景気は個人消費次第、鍵は雇用改善の持続性



注）利下げ開始月を基準月として図示。今回の直近値は2019年6月時点。

出所）米労働省より当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会